

おお大勝利

令和3年度 山東サッカー一部報第2号 (6月10日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体 PK合戦の末初戦敗退

5月29日(土)、30日(日)に県総体の第一ラウンドが行われました。地区総体では高校生のクラスターが発生したことから、今年の県総体はまさに「厳戒態勢」。これまでも感染対策は実施されてきましたが、①アップ時を含め試合直前まで**不織布マスク**を着用(そしてハーフタイムや試合終了直後も着用)、②2週間の健康観察シートは会場に入る前に顧問が各選手から集め確認した上で会場に提出しチェックを受ける、③保護者を含めて無観客で実施するなど、より厳しくなりました。まあ、本当のことを言えば、一般利用客と区別できない運動公園での試合がメインでしたし、会場もスタジアム等の区切られた空間ではないので、観客席以外からは見放題となっており、③の徹底はサッカー競技では不可能でしたが。保護者はほっと胸を撫で下ろしたかもしれません。

さて、**5月29日山東の初戦の相手は、米沢興譲館高校**。進学校大会でも当たったことのある「おなじみの相手」。ただし、「かかってない試合」での経験は当てにならず、今年の公式戦を観たこともないので、両チームともに手探り。故障がちの選手は外し、本番前の練習で好調だった選手を先発させる。会場は、天童にある県総合運動公園のラグビー場。状態はサッカー場に劣るものの¹、やはり天然芝は気持ちがいい。私が高校生の頃は現在以上にめったに天然芝など利用できませんでしたが、たまに利用すると自分がうまくなった気がしたものです。**清野総監督(後援会名誉会長)**はいつも通りチームスタッフとしてベンチ入り、**後藤報道局長**はチーム認可のカメラマンとして会場に入場。保護者はボックス席には入れませんでしたが、会場の周りには集まっていたことでしょう(一応推測ということにしておきます)。

試合が始まると、お互いボールを落ち着かせることのできない試合展開。若干山東が押し気味だったものの、「しっかり守ってカウンター」の興譲館の方がやりたいサッカーをやれていた気がする。そう、山東は今期ここまで同じ路線で活路を見出してきましたが、近年の傾向として、山東が押し気味の展開になり相手に「しっかり守ってカウンター」をやられてしまうと途端に馬脚を露して、相手の方に決定機を多く与える試合になってしまう。スペースが広大にならないとうまく攻められない(個や複数で相手ブロック内に侵入していく攻撃ができない)、相手が近くにいる状況で落ち着いてボール保持できない(相手を抜き去れないとしても少なくともボールを奪われない個のスキルがない)、相手の間でボールを受けることができない(間でボールを受けてはたいしてもらおうパス&ムーブの連続ができない)、以上のすべてが当てはまる。

デグチッチとダイキのツートップにしてからは、山東の押し込む時間がより増えたものの、相手の俊足ツートップを主とするカウンターの方が脅威に感じられた。特に⑩のポジションがいやらしく、一時も心休まらない。後半、**2年ボランチのグッチこと野口**が膝を故障して

¹ ただし、見た目ほど芝の凸凹はなかったです。念のため、準々決勝、準決勝の会場から外しましたが、例年の会場のレベルを前提にすれば、実施しても問題はなかったように感じました。

しまい、交代を余儀なくされる。グッチは攻守に効いていた選手ただだけに、この交代は本当に痛かった……。ただし、交代で出場した**3年トヨバッチことトヨバ**はヘディングもパスも好調で、チームを救う。

スコアレスのまま延長戦に突入し、厚く攻める山東、鋭く反撃する興譲館の展開は変わらず。後半の攻撃か、延長後半の攻撃か、いまいち忘れましたが、デグチッチが左からのボールをゴール前ピッチ中央で足元で受けて右にトラップし、そのまま右足でシュートを打ったシーンと、ダイキが大きくバウンドしたボールに相手より早く反応し相手ゴールに迫りヘディングシュートを狙ったシーンは惜しかった。逆に、「終わった」と観念しかけた危ないシーンもありましたが、**2年DF カナチョロことカナタとコンニャクことショータ**の決死のスライディングと、「**我らが守護神**」**3年GK コーセー**のセーブにより、最後まで土俵を割らない。

結局試合は延長が終了してもスコアレスで、PK 合戦突入。「コーセーがいる分、我々が有利に決まっている」と必死で緊張を抑える。しかし、山東の一人目は、置きに行ったキック²で相手 GK に止められる。二人目のデグチッチは決めたものの、三人目も完全に置きに行ったキックで止められる同じ展開。2年前の県総体の鶴東戦での置きに行ったキックでの連続 PK 失敗が脳裏に浮かぶ。「まったく進歩していない……」。相手 GK に読まれていても決めるくらい強く蹴らなければならない、このことは共通認識ではなかったのか。緊張を強いられる心理状態でも、延長後の疲労のある身体状況でも、強く蹴ることができるまで育成できていなかったということ。相手も一本外しましたが、4人目外したら終わりのところで、山東4人目は右足で全力で強く蹴って、左に大きく外す。それでゲームオーバー。**PK 合戦 1-3での敗戦。2年前と全く同じ……**。後日談ですが、4人目で外した選手に「置きに行つて外した選手を見てたから、左に思いっきり蹴ったんだろ（選択はそれで良かったよ）」と声をかけると、「実はゴール真ん中に蹴ったんです」という驚きの返答。左ポストからもボール4個分外れていたから、ゴール真ん中からだと、ボール20個分くらいずれていることになる。わかりました。鍛えるべきは心理面でも、身体面でもなく、ひとえに技術面でしたね。もちろん、前二者も鍛える必要はあるけど。

初戦で山東の県総体は終了。残念です。無念です。勝てせてやれなくて、3年生には申し訳ない気持ちでいっぱい。これまで何度も思った言葉ですが、この言葉が監督にはふさわしい。「プロだったら解雇されてるよ」。ただし、**負けても負けても辞めることができないのが、部活動の顧問としての監督業**。責任は、試合に勝たせること以外のことに大きく負っているのでしょう。これは言い訳ではなく。

山東に勝った米沢興譲館は、次戦で山形城北と対戦し、粘りある戦いで1-1で延長まで行くも延長戦で力尽き敗れましたが、立派な戦いをしました。立派なチームに屈したんだな、と少し晴れやかな気持ちになりました。そして、山形県の県総体は結局、**東海大山形**が準決勝で羽黒、決勝で山形中央を下し、**23年ぶりの優勝**を果たす。地区大会を含め、ほとんどの強豪チームをなぎ倒しての堂々たる優勝でした。**東海大山形サッカー部の皆さん、おめでとうございます！ ぜひ福井IHでは、一戦必勝、頑張ってください**。福井IHに合わせて開かれる全国専門委員長会議に出席するため、私も福井で応援します！

さっそく今週末からリーグ戦が再開します。Y2A は再開ではなく、開始ですね。応援よろしくお願ひします。ただし、**会場の米沢工業は完全無観客**となります……ご理解ください。**6月13日(日) Y2A 改正第1節 米沢工業戦 @米沢工業 10:00 キックオフ**

² 狙ったところに慎重に(弱弱しく)蹴ることを「置きに行く」と表現します。もちろん、置きに行くキックは相手にバレます。